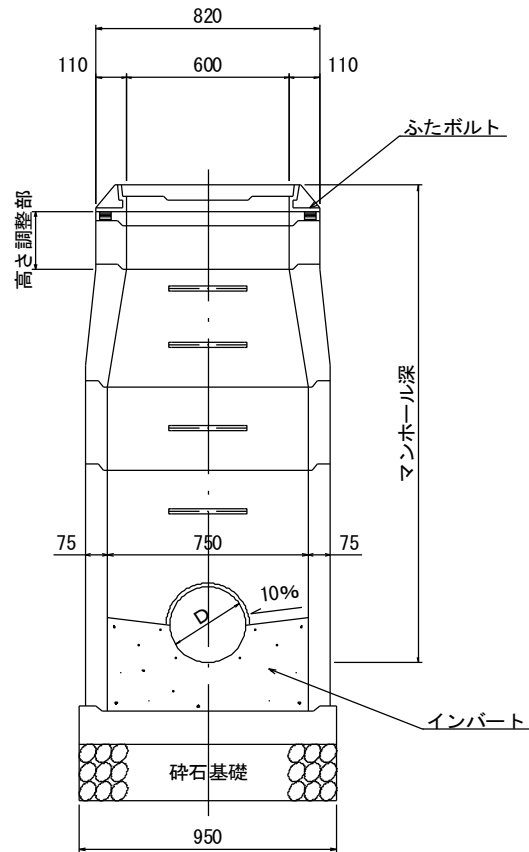
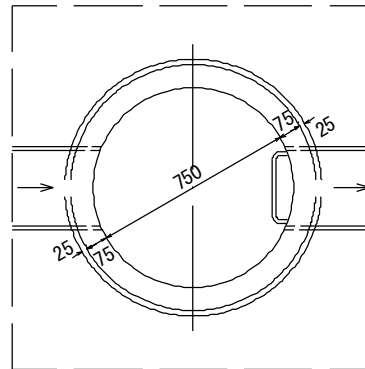


# 0号マンホール（内径750mm）標準構造図

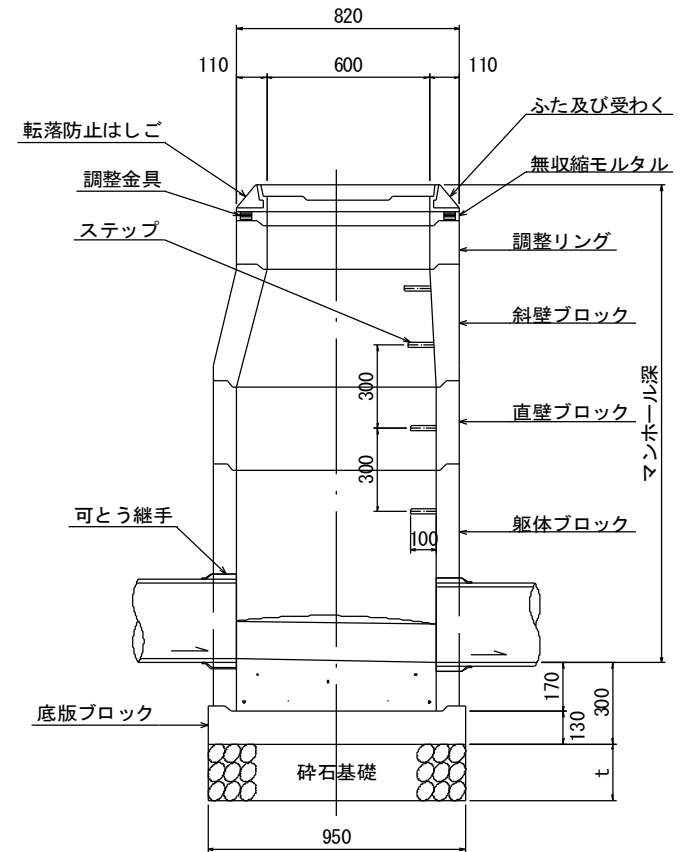
横断面図



平面図



縦断面図

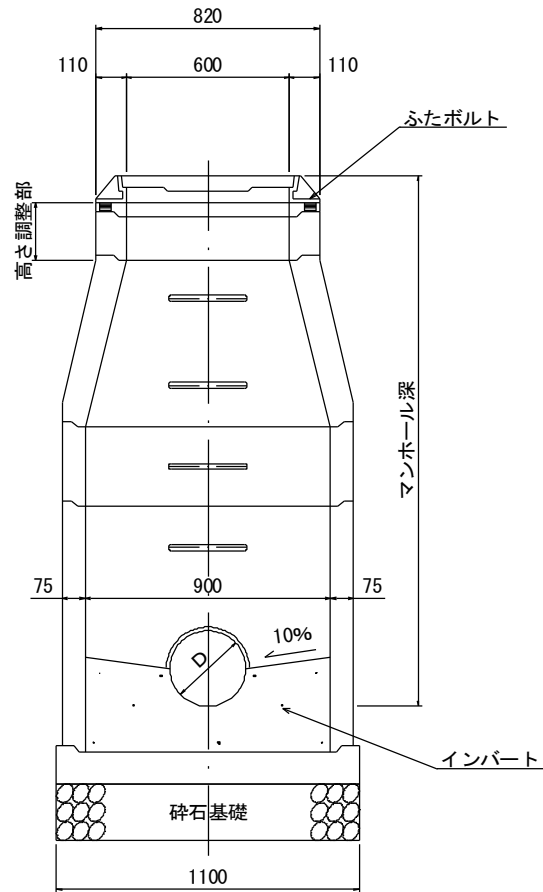


	砕石基礎 (t)
粘性土	200mm
砂質土	200mm
礫質土	0mm

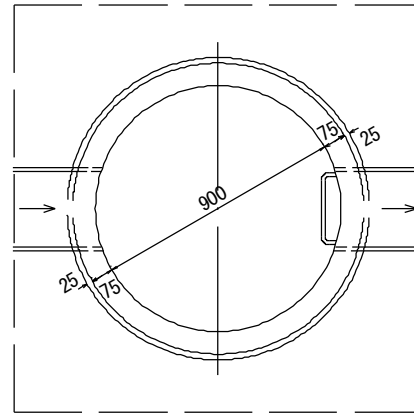
- 注1) 軟弱地盤の基礎構造については別途考慮すること。  
 注2) 高さ調整部(無収縮モルタル)については60mmまでの間とする。  
 注3) 調整リングは100もしくは150を使用する。

# 1号マンホール（内径900mm）標準構造図

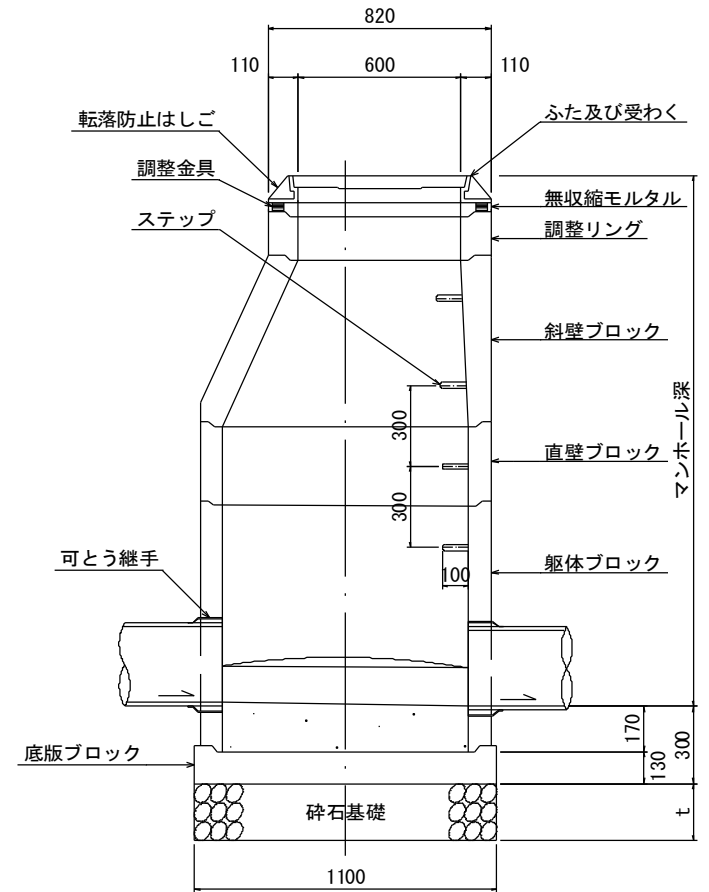
横断面図



平面図



縦断面図

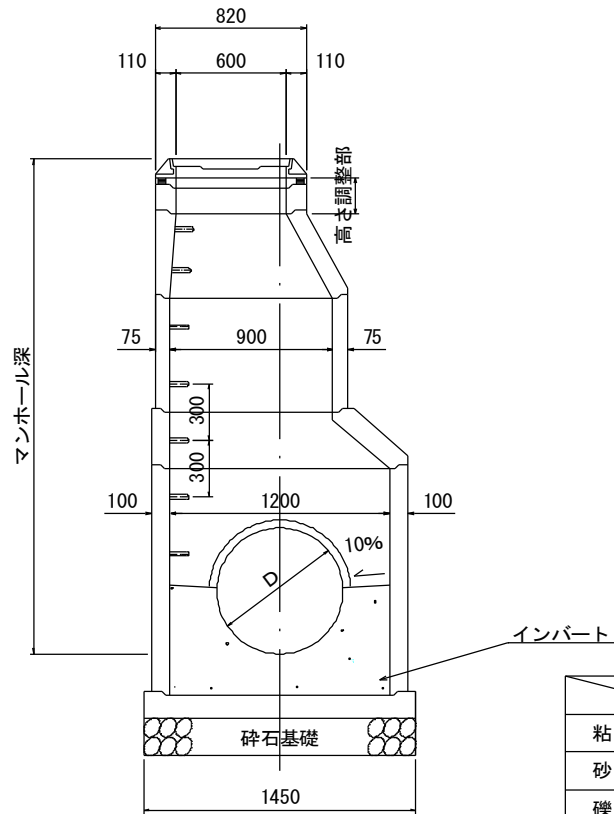


	砕石基礎 (t)
粘性土	200mm
砂質土	200mm
礫質土	0mm

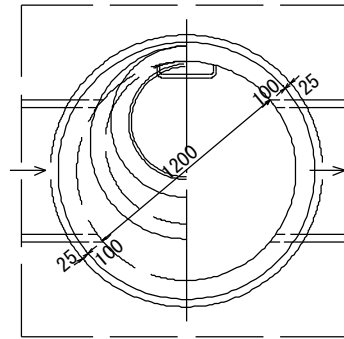
- 注 1) 軟弱地盤の基礎構造については別途考慮すること。  
 2) 高さ調整部(無収縮モルタル)については60mmまでの間とする。  
 3) 調整リングは100もしくは150を使用する。

## 2号マンホール（内径1200mm）標準構造図

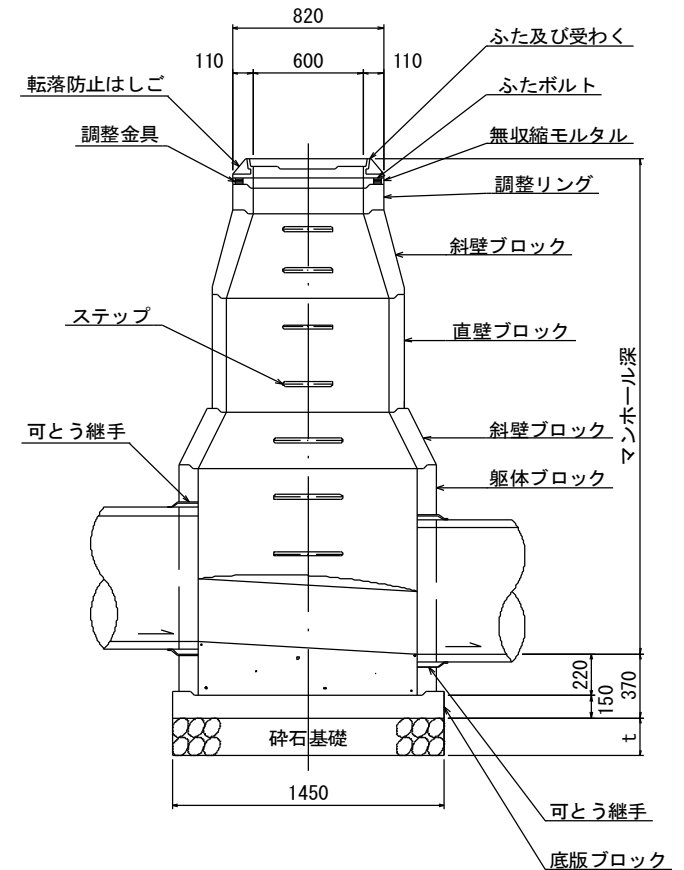
横断面図



平面図



縦断面図

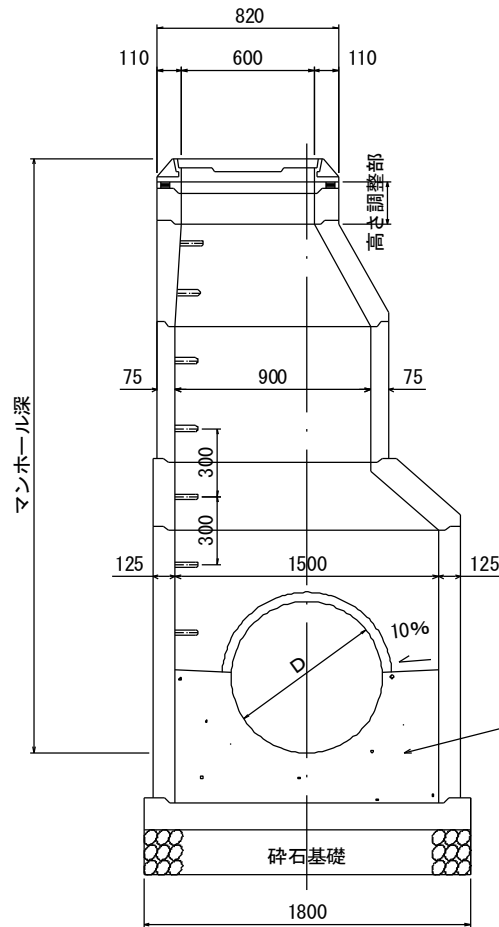


	砕石基礎 (t)
粘性土	200mm
砂質土	200mm
礫質土	0mm

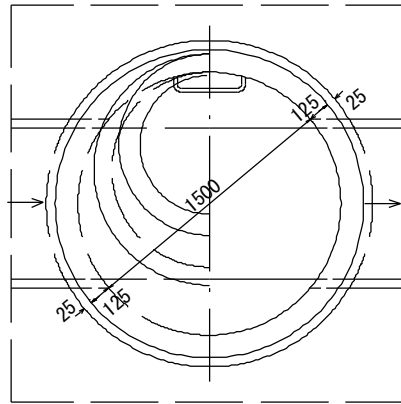
- 注 1) 軟弱地盤の基礎構造については別途考慮すること。  
 2) 高さ調整部(無収縮モルタル)については60mmまでの間とする。  
 3) 将来流入、サービス管の無い場合。  
 4) 深さ5m以上のマンホールは深形タイプ(Ⅱ種)を使用する。  
 5) 流出管径500mm未満の場合のステップの位置は、流出管上にくるものとする。  
 6) 調整リングは100もしくは150を使用する。  
 7) マンホール形状については維持管理を考慮して決定する。

### 3号マンホール（内径1500mm）標準構造図

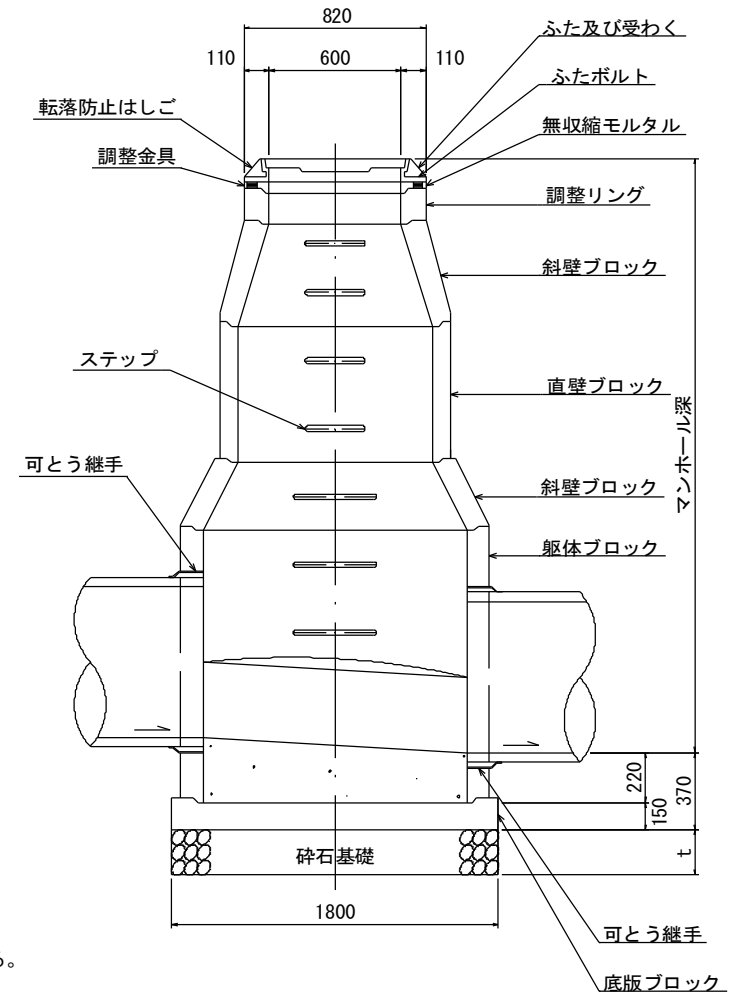
横断面図



平面図



縦断面図

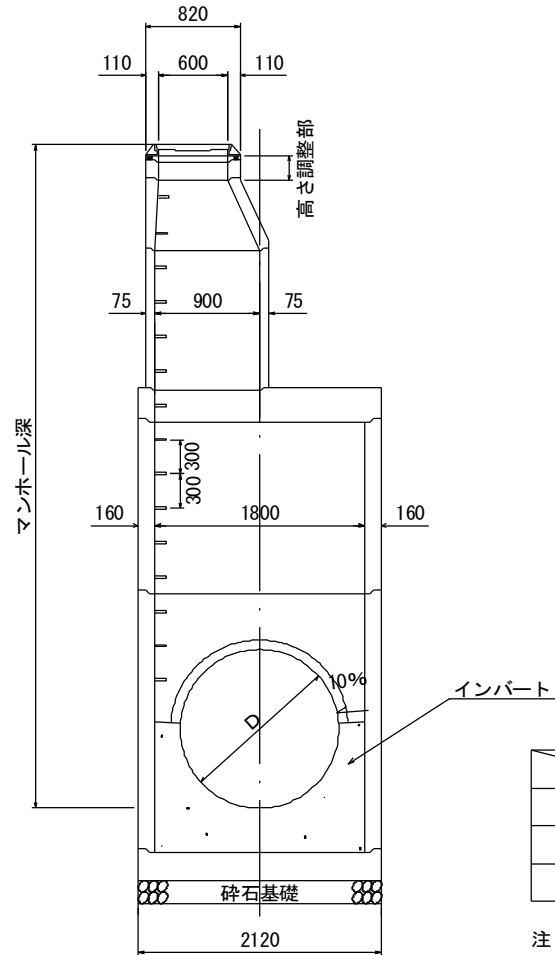


	砕石基礎 (t)
粘性土	200mm
砂質土	200mm
礫質土	0mm

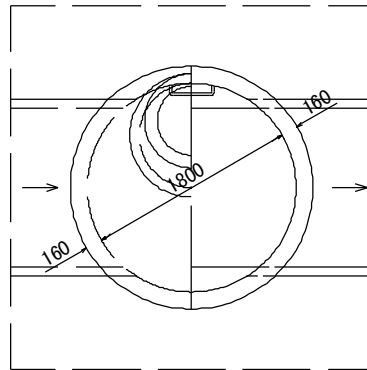
- 注 1) 軟弱地盤の基礎構造については別途考慮すること。  
 2) 高さ調整部(無収縮モルタル)については60mmまでの間とする。  
 3) 将来流入、サービス管の無い場合。  
 4) 深さ5m以上のマンホールは深形タイプ(Ⅱ種)を使用する。  
 5) 流出管径500mm未満の場合のステップの位置は、流出管上にくるものとする。  
 6) マンホール形状については維持管理を考慮して決定する。

# 4号マンホール（内径1800mm）標準構造図

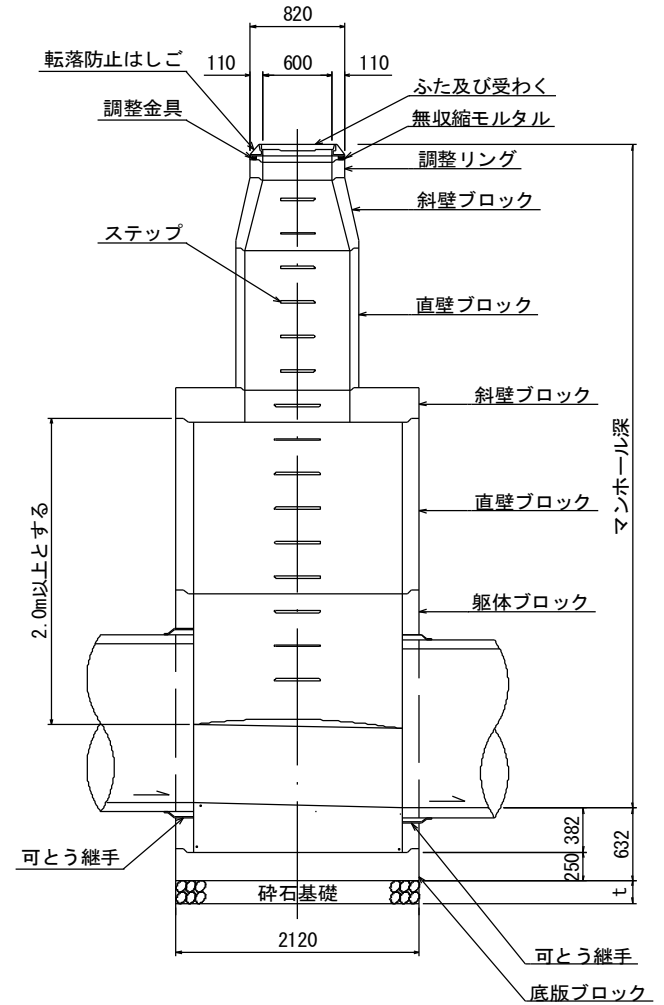
横断面図



平面図



縦断面図

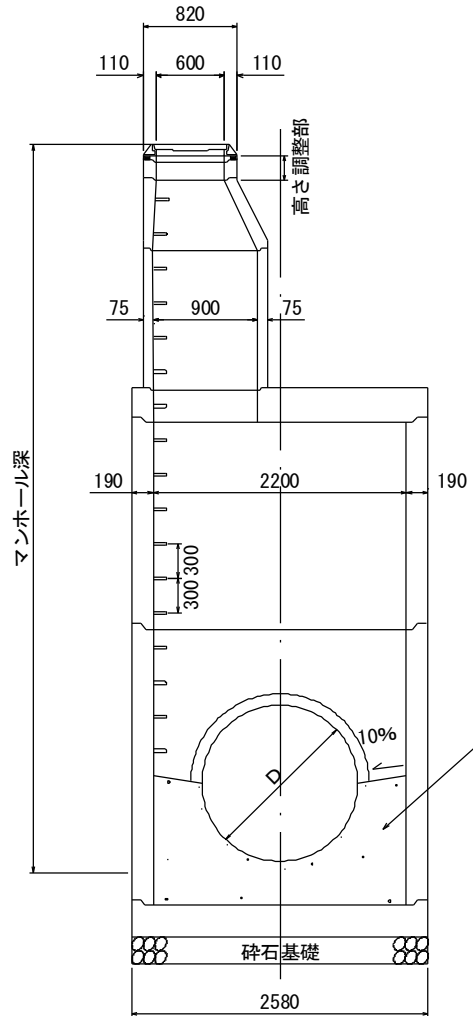


	砕石基礎 (t)
粘性土	200mm
砂質土	200mm
礫質土	0mm

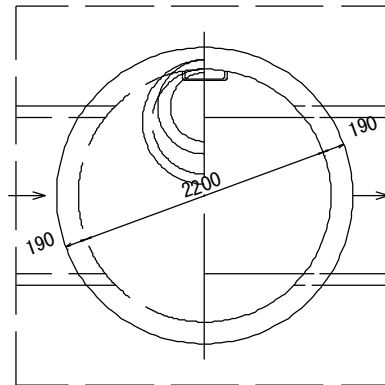
- 注1) 軟弱地盤の基礎構造については別途考慮すること。
- 2) 高さ調整部(無収縮モルタル)については60mmまでの間とする。
- 3) 将来流入、サービス管の無い場合。
- 4) 深さ5m以上のマンホールは深形タイプ(Ⅱ種)を使用する。
- 5) 調整リングは100もしくは150を使用する。
- 6) マンホール形状については維持管理を考慮して決定する。

# 5号マンホール（内径2200mm）標準構造図

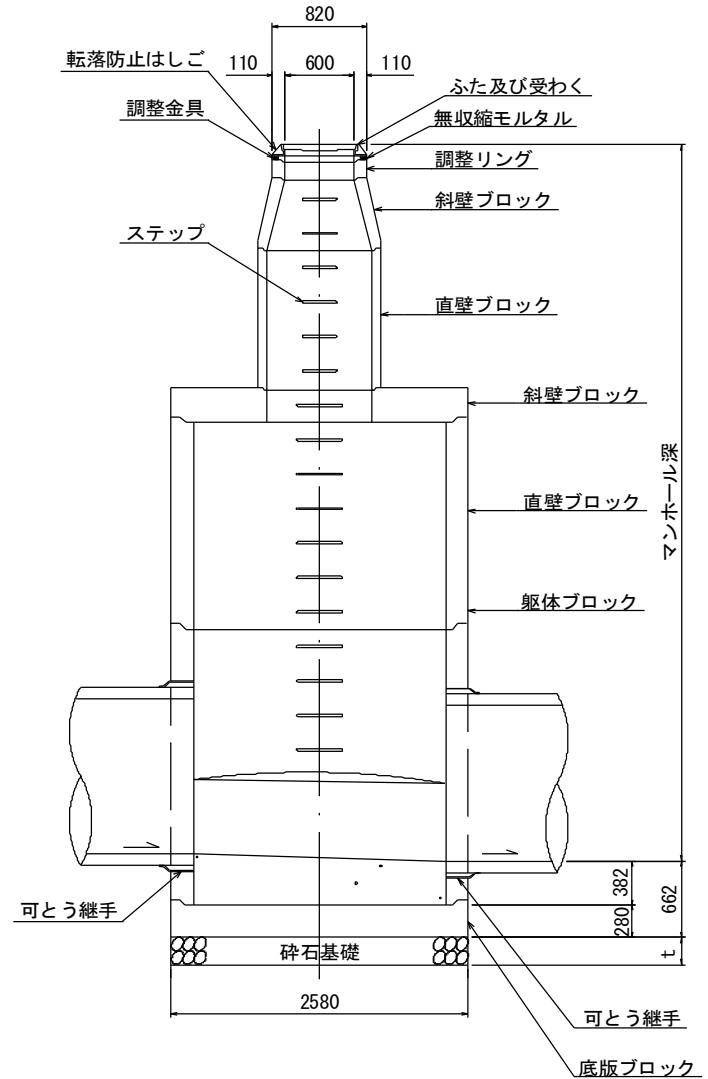
横断面図



平面図



縦断面図

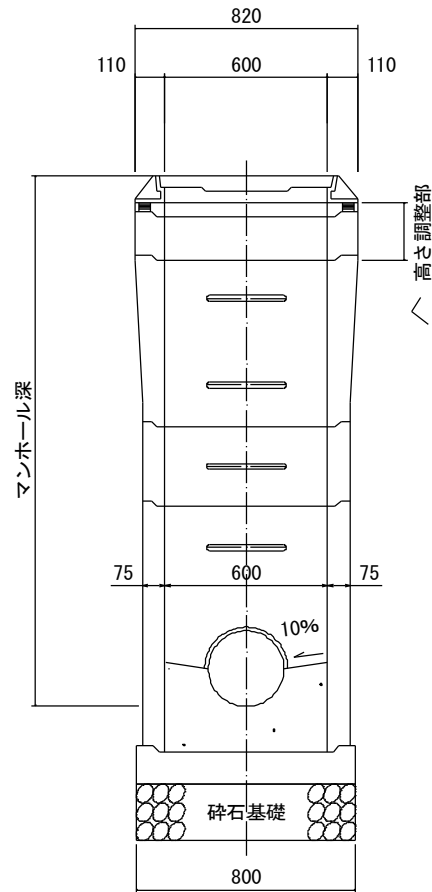


	砕石基礎 (t)
粘性土	200mm
砂質土	200mm
礫質土	0mm

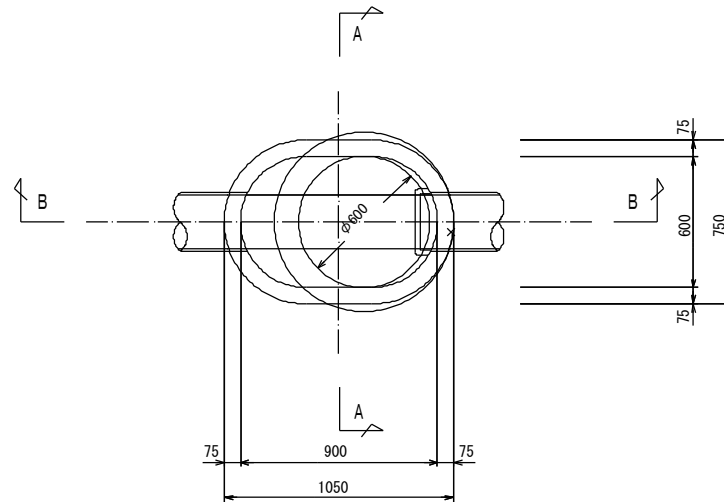
- 注1) 軟弱地盤の基礎構造については別途考慮すること。  
 2) 高さ調整部(無収縮モルタル)については60mmまでの間とする。  
 3) 将来流入、サービス管の無い場合。  
 4) 深さ5m以上のマンホールは深形タイプ(Ⅱ種)を使用する。  
 5) 調整リングは100もしくは150を使用する。  
 6) マンホール形状については維持管理を考慮して決定する。

# 特1号マンホール（内径900×600）標準構造図

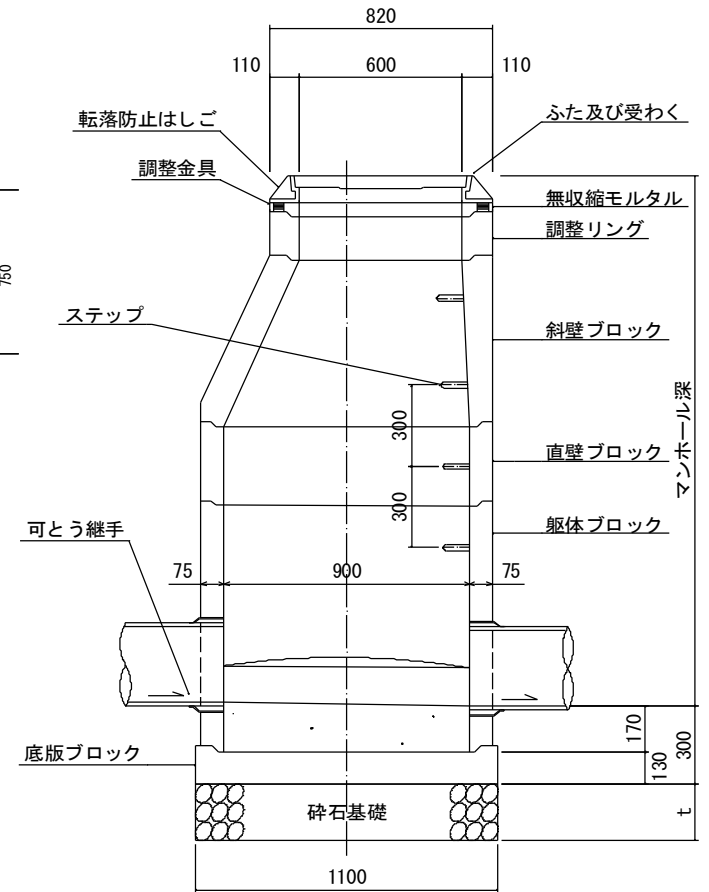
横断面図



平面図



縦断面図

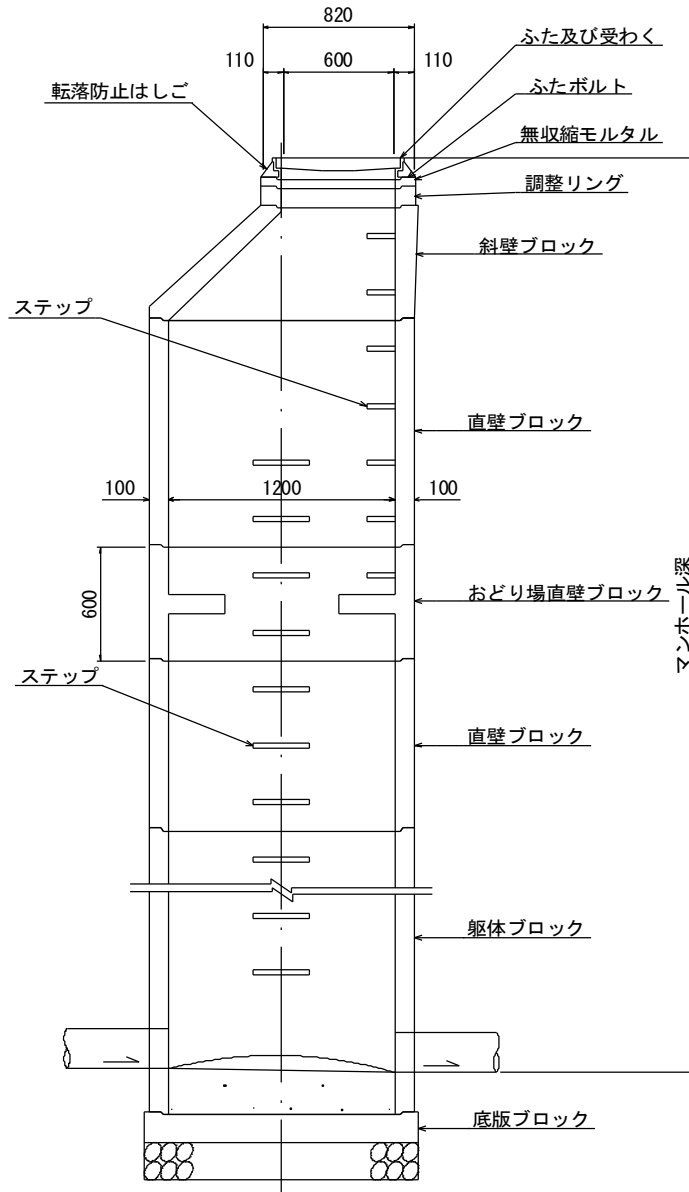


	碎石基礎 (t)
粘性土	200mm
砂質土	200mm
礫質土	0mm

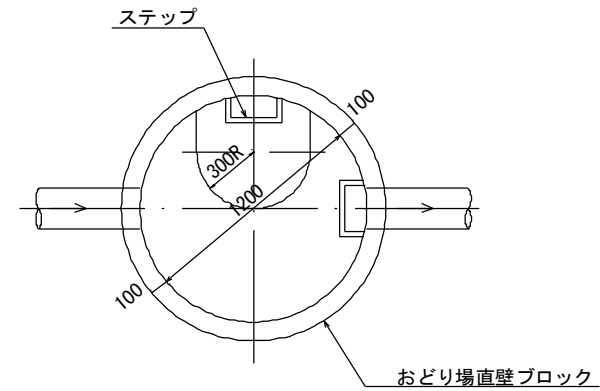
- 注1) 軟弱地盤の基礎構造については別途考慮すること。  
 注2) 高さ調整部(無収縮モルタル)については60mmまでの間とする。  
 注3) 調整リングは100もしくは150を使用する。

# おどり場直壁構造図 (2号タイプ)

断面図



平面図



- 注 1) マンホールの深さが5mを超える場合は、原則として2号マンホール以上の大きさのマンホールを使用し、中間スラブを設置すること。  
 2) 中間スラブの1段当りの高さは、原則として3m以上5m以下とすること。  
 3) 中間スラブを設置するときは、原則として中間スラブ毎に足掛け金物の位置をずらすこと。ただし、やむを得ずこれが不可能な場合は、落防止中ふたを設置しなければならない。